菊池川流域

シリーズ日本遺産 ⑳

米作り、二千年にわたる大地の記憶

～菊池川流域「今昔『水稲』物語」～

問い合わせ先
生涯学習課
社会教育係
☎0968(25)7232

住吉日吉神社雨乞い太鼓（泗水町住吉）

川北雨乞い踊り（山鹿市鹿本町中川）

降雨を祈るまつり①

米作りには、土地と水が欠かせません。現在のようなかんがい施設が整っていない時代、雨不足（水不足）は米の収穫減少に直結していたため、農家にとって死活問題でした。「苦しいときの神頼み」の言葉にあるように、水不足になると人々は踊ったり、太鼓をたたいたりして、雨が降るように神へ祈りました。かつては各地で踊られていたようですが、社会の変化と水利環境の向上などによって、次第に数を減らしています。

今回は山鹿市と菊池市の雨乞い踊りなどを紹介します。

山鹿市の雨乞い踊り

山鹿市北部の山あいには、迫雨乞い太鼓踊り（鹿北町芋生）、相良雨乞い踊り（菊鹿町相良）、小坂雨乞い踊り（小坂）が伝えられています。いずれもはっきりとした由来は分かりませんが、迫は少なくとも180年、相良は300年以上、小坂は500年以上昔からあるといわれています。迫では「明治37年」と墨書きの残る大太鼓が今も使われています。相良は踊り手がほぼ女性で、男装した二人が踊りの輪に加わります。小坂は踊りの形態が古く、念仏踊りの形が変わったものとされています。

また、菊池川に面した平地の集落でも雨乞い踊りが継承されています。宗方万行は山鹿大橋近くの宗方区に伝わる雨乞い踊りで、今から300年以上前に願誉という僧が伝え、その名が訛って「万行」と呼ばれたといわれています。中川橋に近い川北区（鹿本町中川）に伝わる川北雨乞い踊りは、今から約400年前に始まったとされています。かつては地域内のお宮から堤までを移動しながら踊っていたそうです。

住吉日吉神社雨乞い太鼓

花房台地南側にある菊池市泗水町住吉に伝わる住吉日吉神社雨乞い太鼓は、今から約500年前、この地を治めていた合志隆門によって始められたといわれています。

これらの雨乞い踊り、雨乞い太鼓はそれぞれの曲や踊りは異なりますが「大太鼓や鉦（銅鑼）を打ち鳴らす」「浴衣姿の踊り手が蓑笠をかぶる」「輪になって踊るものが多い」など、共通する部分もあるようです。中には踊り手の腰に大きなひょうたんをぶら下げて、こっけいな動きで場をにぎわせるものも見られます。

（担当：山鹿市社会教育課）

イベント情報

■菊池一族と延寿鍛冶展

菊池一族のお抱え鍛冶「延寿」の刀と日本の名刀を集めて展示します。刀剣ファン必見です。

場　所　菊池神社歴史館
期　間　～5月12日(日)
午前9時～午後5時
入館料　大人800円、小中学生400円
問い合わせ先　菊池観光協会
☎0968(25)0513

■菊池川流域日本遺産巡回展（山鹿市編）開催中

これまでの展示に加えて、山鹿市の構成文化財を詳しく紹介。今回が最後の展示です。

場　所　山鹿市立博物館
期　間　～5月6日(月)(祝)
午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
※(月)と(祝)の翌日は休館
入館料
大人210円、子ども50円
問い合わせ先
山鹿市立博物館
☎0968(43)1145

Japan Heritage

菊池川　日本遺産　検索